



# 令和 2年度 杉並区事務事業評価表（2）

## 令和元年度 事業実施状況（D o）

整理番号 155

主な取組	内 容	規模	単位	事業費（千円）
	ふれあい入浴の実施		939	回
	まちの湯健康事業の実施	239	回	6,024
	その他（チラシ作成ほか）			12
事業実績	<p>ふれあい入浴の実施浴場数は、平成22年度の31か所から少しずつ減少し、令和元年度は20か所でした。1回あたりの平均利用者数は、平成26年度から令和元年度まで、64.4人、64.4人、65.1人、64.5人、61.9人、59.9人です。</p> <p>まちの湯健康事業の実施浴場数は、平成22年度の22か所から減少し、令和元年度は14か所でした。</p>			

## 令和元年度 評価と課題（C h e c k）

事業開始当初から現在までの環境の変化と事業に対する意見（期待・要望・苦情等）	<p>区内の公衆浴場は、昭和49年度の111か所から減少し続けて、令和元年度は20か所になりました。</p> <p>ふれあい入浴については、「自宅にお風呂があっても、銭湯のほうが気持ちよい」「風呂掃除が辛くなったので有り難い」「高齢者同士で健康の確認をしあいながら、世間話ができて楽しい」「通院日等と重なり、指定の曜日・時間帯に行くことは難しい」などの声が寄せられています。</p> <p>まちの湯健康事業は、「参加者の多い日は、体操に必要なスペースを確保できない」との声もあります。</p>
事業の今後（3～5年）の予測と方向性	<p>ふれあい入浴は、実施浴場数の減少により、利用人数も減少しています。利用日時を限定した現在の実施方法（週1回2時間）では、新型コロナウイルス感染症に対して利用者の安全性が確保できないため、利用者を分散させるよう工夫して実施していきます。</p> <p>まちの湯健康事業は、リピーターを含む参加者の増加により、希望者全員の受け入れや、安全な事業実施が困難になる傾向にあります。安全性の確保や新型コロナウイルス感染症対策として、各浴場での適切な利用定員で実施します。</p>
計画（目標値）に対する実績（指標の分析等）	<p>ふれあい入浴は、浴場の臨時休業等にもない、実施回数が減る場合があります。利用者数については、天候等により増減があります。</p> <p>ふれあい入浴・まちの湯健康事業ともに令和2年3月は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から事業を中止しました。</p>
評価と課題	<p>ふれあい入浴は、利用日時を限定した実施方法（週1回2時間）であり、利用者の密集を避けるため令和2年3月は事業が実施できませんでした。実施に向けて利用の集中をさせない新しい方法を検討します。</p> <p>まちの湯健康事業は、限られた利用者が複数か所の浴場に参加していることが、混雑の原因にもなっていることから、安全に事業を実施するための利用定員の見直しを図ります。</p>

## 令和 3年度の方針（A c t i o n）

予算の方向性（見直しの視点）	I. 事業コストの方向性	現状維持
	II. 事業の改善の方向性	手段・方法の見直し（改善）
予算の方向性の理由・内容	<p>ふれあい入浴については、高齢者の交流を広げ、憩いの場を提供するという事業目的に則しつつ、安全確保のため参加者が分散するよう運営方法を見直します。</p> <p>浴場の脱衣場を活用したまちの湯健康事業は、利用者の安全確保のため利用定員の見直しを行います。</p>	

# 令和 2年度 杉並区事務事業評価表 (1)

(00142)

事務事業名称	風呂つと杉並	款 04	項 01	目 02	事業 011	整理番号	156
現担当課名	高齢者施策課	係名	いきがい活動支援係	連絡先 電話番号	1164	昨年度 整理番号	156
上位施策No・施策名	13 高齢者の社会参加の支援			予算事業区分	既定事業		
事業開始	平成13年度						
令和元年度 担当課名	高齢者施策課			事業評価区分	一般		

## 令和元年度 事務事業の概要 (Plan)

対象	60歳以上の区民 (平成26年度より、対象年齢を「50歳以上」から「60歳以上」に変更)	根拠 法令 等	(1) 杉並区風呂つと杉並事業補助金交付要綱 (2) 杉並区風呂つと杉並事業補助金補助基準
事業の目的・目標 (対象をどのような状態にしたいのか)	○公衆浴場を、健康増進や生きがいを目的とした60歳以上の高齢者の自主グループに開放することで、高齢者の活動・交流を推進していく。	活動指標 指標名 (1)	風呂つと杉並事業を実施する浴場数
活動内容 (事務事業の内容、やり方、手段)	○区内の公衆浴場を60歳以上4名以上のグループに有料 (利用料は浴場によって異なる) で開放し、自主的な活動や交流の拠点とする風呂つと杉並事業 (杉並浴場組合自主事業) に要する経費について、運営費を助成する。	指標説明	
		成果指標 指標名 (1)	年間実施回数
		指標説明	
		指標名 (2)	年間延べ利用人数
		指標説明	

## 指標、総事業費・コスト把握 (Plan・Do)

区分	単位	平成29年度	平成30年度		令和元年度		令和 2年度 計画	令和元年度 対計画比 (%)	令和元年度 予算執行率 (%)	
		実績	計画	実績	計画 (目標値)	実績				
活動指標 (1)	1 所	9	10	7	10	8	10	76.4		
活動指標 (2)	2									
成果指標 (1)	3 回	348	360	341	348	261	348			75.0
成果指標 (2)	4 人	2,182	2,520	2,200	2,436	1,635	2,436			67.1
事業費	5 千円	3,432	3,545	3,431	3,545	2,709	3,545	特記事項 年間を通して実施回数が減少し、さらに令和2年3月は新型コロナウイルス感染防止対策のため、事業を中止したことから、事業費が減少しました。		
(内) 投資的経費等	6 千円	0	0	0	0	0	0			
(内) 委託費	7 千円	0	0	0	0	0	0			
職員数	8 人	0.20	0.20	0.20	0.20	0.25	0.20			
	9 人	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00			
人件費	10 千円	1,718	1,718	887	887	1,125	900			
	11 千円	0	0	0	0	0	0			
総事業費 (5+10+11)	12 千円	5,150	5,263	4,318	4,432	3,834	4,445			
単位当たりコスト ((12-6)÷1)	13 円	572,222	526,300	616,857	443,200	479,250	444,500			
財源	14 千円	0	0	0	0	0	0			
	15 千円	0	0	0	0	0	0			
	16 千円	1,773	1,772	1,772	1,772	1,772	1,772			
	17 千円	0	0	0	0	0	0			
特定財源計 (14+15+16+17)	18 千円	1,773	1,772	1,772	1,772	1,772	1,772			
差引：一般財源 (12-18)	19 千円	3,377	3,491	2,546	2,660	2,062	2,673			
受益者負担比率 (14÷12)	20 %	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			

# 令和 2年度 杉並区事務事業評価表（2）

## 令和元年度 事業実施状況（D o）

整理番号 156

主な取組	内 容	規模	単位	事業費（千円）
	風呂っと杉並運営費補助		8	所
	その他（ ）			
事業実績	<p>令和元年度は、8浴場で全261回実施しました。各浴場で月0～8回の利用があり、内容は主に体操・ヨガ・ゲーム・民謡・手芸等です。 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、令和2年3月の事業は中止しました。</p>			

## 令和元年度 評価と課題（C h e c k）

事業開始当初から現在までの環境の変化と事業に対する意見（期待・要望・苦情等）	<p>本事業が開始された平成13年度は、区内公衆浴場が56か所ありましたが、令和元年度は20か所になりました。 実施浴場数は、事業開始当時は15か所でしたが、平成20年度からは9か所程度を推移して令和元年度は8か所でした。 登録団体には好評です。</p>
事業の今後（3～5年）の予測と方向性	<p>令和元年度までは、登録団体が継続して利用出来る仕組みのため、利用ごとに「利用申込書・報告書」の提出を前提とした方法に変更していきます。</p>
計画（目標値）に対する実績（指標の分析等）	<p>各浴場の実施回数には差があり、利用実態がつかみにくいため、令和元年度評価から成果指標を変更しました。浴場組合の年間実施回数と年間延べ利用者数により、事業実績を示します。 令和2年3月は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から事業を中止しました。</p>
評価と課題	<p>登録団体の固定化を防ぐため、健康増進を目的とした高齢者団体の活動に利用できる事業であることを広く周知していく必要性があり、浴場組合とともに効果的な周知方法を検討します。</p>

## 令和 3年度の方針（A c t i o n）

予算の方向性（見直しの視点）	I. 事業コストの方向性	現状維持
	II. 事業の改善の方向性	手段・方法の見直し（改善）
予算の方向性の理由・内容	<p>活動の場を求める高齢者団体に対して、浴場の開放日時など案内を具体的に示し、風呂っと事業の新規の利用申込につなげていきます。</p>	



# 令和 2年度 杉並区事務事業評価表（2）

## 令和元年度 事業実施状況（D o）

整理番号 157

主な取組	内 容	規模	単位	事業費（千円）
	いきいきクラブ助成（いきいきクラブ連合会 1・各いきいきクラブ 67）	68	団体	22,170
	福祉大会・都市交流等事業	1	団体	500
	その他（旅費の支給、連絡用郵券の購入ほか）			48
事業実績	<p>いきいきクラブ（67クラブ）が、社会奉仕活動や友愛活動（7,155回）、健康増進活動（7,540回）、いきがいを高める活動（7,635回）を実施しました。</p> <p>いきいきクラブ連合会及び地区連合会で、福祉大会7回、スポーツ大会7回、健康づくり事業9回、東吾妻町とのグランドゴルフ大会による交流懇談会等を実施しました。</p>			

## 令和元年度 評価と課題（C h e c k）

事業開始当初から現在までの環境の変化と事業に対する意見（期待・要望・苦情等）	<p>昭和33年度、3クラブで開始し、平成5年度に会員数のピーク（12,071人）、平成10年度にクラブ数のピーク（100クラブ）となりました。令和元年度は、66クラブ、会員数5,185人です。</p> <p>高齢者人口は年々増加していますが、新規加入者より退会者が多くクラブ数及び会員数は年々減少しています。</p> <p>会員からは、「生きがい活動を楽しんでいる。」という声や、「健康づくり教室は参考になった。」という意見などがあります。一方、会員の高齢化が進み、「区やいきいきクラブ連合会への提出書類の作成が困難になってきている。また、役員の後継者がなく困っている。」という声もあります。</p>
事業の今後（3～5年）の予測と方向性	<p>老人クラブ加入者の減少は全国的な傾向となっており、区でもいきいきクラブ加入者数の減少と、それに伴う活動の縮小が予測されます。</p> <p>高齢化が進む中で、活動の継続と活性化を推進して会員増加を図るため、いきいきクラブ及びいきいきクラブ連合会に対する支援を継続していきます。</p>
計画（目標値）に対する実績（指標の分析等）	<p>いきいきクラブ加入者数及び加入率の目標未達の要因は、就業卒業年齢の上昇や高齢者の居場所の多様化による新規加入者の減少や、既存会員の高齢化による退会者数の増加にあると推定されます。</p> <p>1か月の社会奉仕活動回数（クラブ当たり）の目標未達の要因は、会員数の減少による活動の衰退化と、新型コロナウイルス感染症の拡大による活動自粛によるものと推定されます。</p>
評価と課題	<p>いきいきクラブは、社会奉仕活動や健康増進活動、いきがい活動を通じて、高齢者の社会参加に一定の成果をあげてきました。しかし、高齢者人口は年々増加しているにもかかわらず、会員数の減少や高齢化が進んでおり、活動回数も減少傾向にあります。</p> <p>より一層ボランティアや友愛活動など地域の支えあいにつながる活動や、会員以外も参加できる行事の企画を推進し、いきいきクラブの魅力や地域の高齢者に発信する取組に対する支援を行うことで、新規加入者数の増加と退会者数の減少と、新規クラブ設立の促進を図ります。</p>

## 令和 3年度の方針（A c t i o n）

予算の方向性（見直しの視点）	I. 事業コストの方向性	現状維持
	II. 事業の改善の方向性	手段・方法の見直し（改善）
予算の方向性の理由・内容	<p>高齢者が、地域の中で様々な活動を通して生きがいを感じ、地域とのつながりや高齢者同士の支えあいを実感することで充実した日々を送り、地域包括ケアを実現するために、地域の互助組織であるいきいきクラブの存在は必要不可欠です。</p> <p>会員の減少や高齢化は進んでいますが、長年続いている活動を助け合いながら継続しているクラブや、仲間づくりのための新たな活動を始めるクラブを今後も支援していきます。</p> <p>また、後継者が見つからないまま役員が高齢化しているクラブの中で、大きな負担となっている会計処理や区への提出物の作成について適切な指導や助言を行うことにより、クラブの維持ができるよう、支援していきます。</p>	



# 令和 2年度 杉並区事務事業評価表 (2)

## 令和元年度 事業実施状況 (D o)

整理番号 158

主な取組	内 容	規模	単位	事業費 (千円)
	シルバー人材センター運営助成			
	その他 (負担金の支出ほか)			50
事業実績	<p>シルバー人材センターの事業実績は、契約件数7,188件、事業収入876,097千円です。契約件数の内訳は、有料自転車駐車場管理等の公共事業125件、民間企業の事業670件、独自事業35件、一般家庭の事業6,342件、労働者派遣事業16件です。労働者派遣事業による契約額は4,770千円と目標を上回りました。地域貢献活動として「シルバー孫の手」事業は、130件実施しました。</p> <p>また、センター創立40周年記念式典を令和元年11月21日に杉並公会堂で開催しました。</p>			

## 令和元年度 評価と課題 (C h e c k)

事業開始当初から現在までの環境の変化と事業に対する意見 (期待・要望・苦情等)	<p>区の総人口に占める60歳以上の区民の割合は、昭和54年は8.6%で、平成31年4月は25.8%です。シルバー人材センターの会員数は、昭和54年度末は1,280人で、令和元年度末は2,697人です。65歳までの継続雇用の定着、更なる雇用延長が進む中で、ここ3年は微減となっています。</p> <p>年間を通じて実施しているお客様満足度調査においては、総合評価で75点以上が大半を占め、好評価を受けています。</p>
事業の今後 (3~5年) の予測と方向性	<p>シルバー人材センターが令和元年5月に策定した、令和元年度から令和5年度までの5か年の中期計画「れいわライジングプラン」を基に、派遣事業を含め、就業開拓による就業機会拡大や地域貢献活動への参加などを通じて、高齢者が生きがいなどを得られ、活力ある地域社会づくりに寄与する役割を果たしていきます。また、計画期間の中間年にあたる令和3年度には、社会環境の変化等を踏まえて計画を見直します。</p>
計画 (目標値) に対する実績 (指標の分析等)	<p>就業人員、会員数ともに、令和元年度の対計画比は96%を超えましたが、請負契約などの件数は91.7%と伸び悩んでいます。これは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、3月に業務が中止となった影響によるものです。</p> <p>会員数が年々減少傾向になっていますが、就業実人員は平成30年度より19名増の1,974名と増になっており、未就業の会員へのPRの成果が表れたものと捉えています。</p>
評価と課題	<p>シルバー人材センターは新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、多く会員が見込まれる3月の入会説明会を中止したことで、会員数は目標に到達しませんでした。請負契約は令和元年度より934万円減少し、目標を大幅に下回る結果となりました。また、地域貢献活動の一つである「シルバー孫の手」事業は、令和元年度に比べ31件の増となり、地域の担い手としての役割に取り組んだ成果が表れています。</p> <p>今後は、契約件数をあげるため、需用の多い家事、子育てサービスに対し適切に会員を配置するなどの運営上の工夫について助言していきます。</p>

## 令和 3年度の方針 (A c t i o n)

予算の方向性 (見直しの視点)	I. 事業コストの方向性	現状維持
	II. 事業の改善の方向性	現状維持
予算の方向性の理由・内容	<p>令和2年度の補助金の実績が大幅減であるのは、途中退職したベテラン職員と補充した新規職員の人員費の差額などによるものです。引き続き、社会変化に応じ需要の少ない事業の見直しを行うなど、スクラップ・アンド・ビルドの視点での取組が進むよう必要な助言を行います。</p>	



# 令和 2年度 杉並区事務事業評価表 (2)

## 令和元年度 事業実施状況 (D o)

整理番号 159

主な取組	内 容	規模	単位	事業費 (千円)
	杉の樹大学運営委託		1	所
	高齢者の就業・社会参加支援委託	1	所	2,606
	元気高齢者地域活躍推進事業	1	所	2,368
	その他 (研修会講師謝礼ほか)			34
事業実績	<p>杉の樹大学事業は、年間3期各8回の講座 (延べ109名) と2回の公開講座 (延べ40名) を実施しました。</p> <p>高齢者の就業・社会参加支援事業は、個別相談を22回 (延べ52名) 実施、就業に関する講座を17回開催 (延べ193名参加) し、年間就業者は11名でした。</p> <p>元気高齢者地域活躍推進事業は、セミナーの受講者が14名、うち就業者は9名となりました。</p> <p>社会貢献スタッフ、まちの湯健康事業等で、手ぬぐい体操等の講師として活動しました。</p>			

## 令和元年度 評価と課題 (C h e c k)

事業開始当初から現在までの環境の変化と事業に対する意見 (期待・要望・苦情等)	<p>区の高齢化率 (65歳以上の総人口に占める割合) は、昭和50年7.4%、平成元年11.4%、平成31年4月には20.9%と増加しています。</p> <p>杉の樹大学事業は、昭和59年に直営で開始しましたが、現在は公募型プロポーザルにより運営を法人に委託しています。</p> <p>また、平成29年度から実施している元気高齢者地域活躍推進事業は、就業セミナー受講者に対し、個別の相談をして就業先のマッチングを行い、安心して就業に就けたと受講者から好評を得ました。</p>
事業の今後 (3~5年) の予測と方向性	<p>杉の樹大学事業では、高齢者の地域デビューのきっかけとなるような、興味を持てる講座を検討していきます。また、会場での開催ができない場合などのオンラインによる講座の実施も検討します。</p> <p>元気高齢者地域活躍推進事業は平成29年度からの3年間の実施の効果を踏まえ、一部を除き令和元年度で事業を廃止しました。令和2年度から事業の一部であった就業セミナーを高齢者の就業事業へ移行します。同時に高齢者の就業事業については、より就業に直結させるため、就業体験や個別相談の充実等による事業の強化を図ります。</p>
計画 (目標値) に対する実績 (指標の分析等)	<p>活動指標である高齢者の就職成立件数20件に対し、高齢者の就業・社会参加支援事業では11件の実績となり、目標には達しませんでした。</p> <p>成果指標の地域貢献事業の開催回数と社会貢献スタッフ派遣人数の減は、新型コロナウイルス感染症の影響で、令和2年3月の事業中止によるものです。</p> <p>成果指標となっている社会貢献スタッフ事業が廃止のため、令和3年度に改めて活動指標と成果指標を定めます。</p>
評価と課題	<p>杉の樹大学事業では、地域との関わりが薄い方や活動に踏み出せない方が、参加しやすいように通年講座から年間3期各8回の講座に変更した結果、受講者数が27名から109名に増加しました。新しい参加方法として、オンライン配信による講座も検討していきます。</p> <p>高齢者の就業・社会参加支援事業では、延べ193名の講座参加者がありましたが、就業者数は11名で、講座の内容が就業に結びつかないことが課題です。元気高齢者地域活躍推進事業では、就業セミナーの就労実習先を介護施設に絞ったことで、高齢者の労働力と介護施設の人手不足が結び付き、9名が就業することができました。今後は、高齢者の就業者数が増加するよう取り組むため、これらの事業の講座や就職セミナー等を見直し、高齢者の就業支援をさらに強化します。</p>

## 令和 3年度の方針 (A c t i o n)

予算の方向性 (見直しの視点)	I. 事業コストの方向性	縮小
	II. 事業の改善の方向性	手段・方法の見直し (改善) ・実施主体の見直し
予算の方向性の理由・内容	<p>杉の樹大学事業は、社会貢献意欲のある高齢者を支援するため、講座のカリキュラムを充実していきます。</p> <p>元気高齢者地域活躍推進事業は平成29年度からの3年間の実施の効果を踏まえ、一部を除き令和元年度で事業を廃止しました。令和2年度から事業の一部であった就業セミナーを高齢者の就業事業へ移行します。同時に高齢者の就業事業は就業に直結しない講座を廃止し、個別相談の回数を増やすなど就業強化したのを見直しました。</p> <p>社会貢献スタッフ事業は、平成23年に区直営の健康事業が終了し、社会貢献スタッフの派遣も終了しましたが、平成23年以降も講師としての活動を支援するために、ボランティア保険等の加入支援を続けてきました。しかし、講師としての活動を支援する区の役割は終了していると判断したため、事業を終了しました。</p>	



# 令和 2年度 杉並区事務事業評価表 (2)

## 令和元年度 事業実施状況 (D o)

整理番号 173

主な取組	内 容	規模	単位	事業費 (千円)
	ゆうゆう館受付等業務委託 (うち協働事業館32館)		32	館
	協働事業館支援事業の実施 (備品・消耗品購入)	5	館	3,564
	ゆうゆう館評価委員会及び選定委員会開催	5	回	171
	その他 ( )			
事業実績	<p>32館 (ゆうゆう広場1館含む) で年間9,691回の協働事業が行われ、延べ10万5千人を超える参加者がありました。利用した人数は395,007人でした。</p> <p>ゆうゆう館協働事業実施団体の評価は、平成29年度に開始した2団体を対象に、評価委員会を2回開催して実施しました。</p> <p>また、令和元年度に協定期間が満了となる4館を対象に、協働事業実施団体を募集したところ、6団体から応募があり、選定委員会を3回開催して4団体を選定しました。</p>			

## 令和元年度 評価と課題 (C h e c k)

事業開始当初から現在までの環境の変化と事業に対する意見 (期待・要望・苦情等)	<p>受付等業務委託は、平成18年度の時点では16館 (うち協働事業館9館) で行っていました。平成23年度から区内32か所あるゆうゆう館の全てが、受付等業務委託館及び協働事業実施館となりました。ゆうゆう館の運営は順調に行われており、受託団体の接客姿勢についてもアンケートのほか、直接利用者からも満足との評価を得ています。また、利用者のニーズに合わせて内容を取り入れるなど協働事業を幅広く行っています。一方、従来からゆうゆう館を利用していた高齢者団体等からは、希望する日時での部屋の確保ができなくなり、自主活動がやりづらくなったなどの声が寄せられています。なお、ゆうゆう阿佐谷北館は、令和元年12月に廃止となり、コミュニティふらっとへの移行までの間、代替施設としてゆうゆう広場を令和2年1月に東原中学校内に開設しました。</p>
事業の今後 (3~5年) の予測と方向性	<p>高齢人口の増加に伴い、高齢者の活動の場としてゆうゆう館の必要性は、今後も大きく期待されます。高齢者のニーズに対応した館運営を行うために、区は評価及び選定を通して事業者の指導や支援を行います。その一方で、杉並区立施設再編整備計画では、ゆうゆう館は、多世代が身近な地域で集うことができる地域コミュニティ施設 (コミュニティふらっと) へと段階的に再編整備されることになっています。再編後もコミュニティふらっとにおいて、高齢者が社会参加や交流、いきがい活動の拠点の場としての役割を継承していきます。令和3年1月には阿佐谷、東原、馬橋のコミュニティふらっとが開設します。</p>
計画 (目標値) に対する実績 (指標の分析等)	<p>協働事業参加者の満足度においては、目標値より高い数値を得ることができました。一方、ゆうゆう館の協働事業実施回数や協働事業参加者数、部屋の稼働率は、新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、ゆうゆう館を3月に休止した影響もあり、目標値から大きく下回りました。</p>
評価と課題	<p>ゆうゆう館は高齢者の社会参加や交流、いきがい活動の拠点となっています。今後も、地域に根差した施設として、高齢者の満足度がさらに上がるよう運営を行っていきます。</p> <p>また、杉並区立施設再編整備計画では、地域コミュニティ施設 (コミュニティふらっと) への転用・再編整備を進めることとなっており、今後継承するゆうゆう館の機能と役割については関係課と協力しながら適切な運営方法を確立します。</p>

## 令和 3年度の方針 (A c t i o n)

予算の方向性 (見直しの視点)	I. 事業コストの方向性	縮小
	II. 事業の改善の方向性	手段・方法の見直し (改善)
予算の方向性の理由・内容	<p>高齢者の社会参加や交流、いきがい活動の場として、利用者の満足度がさらに上がるよう協働事業の充実や受付業務の向上を受託事業者と連携を取りながら進めていきます。</p> <p>ゆうゆう館のコミュニティふらっとへの転用・整備については、引き続き関係各課と協力しながら取組めます。</p>	



# 令和 2年度 杉並区事務事業評価表（2）

## 令和元年度 事業実施状況（D o）

整理番号 174

主な取組	内 容	規模	単位	事業費（千円）
	三療サービス（ゆうゆう館）事業委託		4,655	人
	その他（シーツの洗濯料ほか）			1,437
事業実績	<p>ゆうゆう館32館を利用し例年月40回、年間480回実施しています。令和元年度は、3月に新型コロナウイルス感染症の拡大によるゆうゆう館の休館に伴う事業の中止があり年間440回に減少しました。実績数は4,655人です。はりとマッサージは希望制ですが内訳はマッサージ希望が3,769人（81%）はり希望が886人（19%）です。ゆうゆう館における「はり」の実施の適否を検討した結果、廃止を決定しました。</p>			

## 令和元年度 評価と課題（C h e c k）

事業開始当初から現在までの環境の変化と事業に対する意見（期待・要望・苦情等）	<p>ゆうゆう館における利用数は、令和元年度は4,655人であり、過去5年同水準の利用傾向です。</p> <p>また、高齢者活動支援センターにおける利用数は、令和元年度は3,253人でこれも過去5年同水準の利用傾向です。高齢者活動支援センターは平成24年5月以降指定管理者制度に移行し、指定管理者と杉並区高齢者三療サービス連絡協議会との契約になったことから、事業予算は指定管理料から支出する形に変更しました。平成29年度にはプロポーザルにより同一の指定管理事業者に更新されました。</p>
事業の今後（3～5年）の予測と方向性	<p>区の施設整備再編計画に基づくゆうゆう館の地域コミュニティ施設への転換を契機に、三療サービスのあり方を検討していきます。</p> <p>利用者が固定化する傾向がみられますが、より多くの方に利用していただくため、ホームページやゆうゆう館での周知を強化していきます。</p>
計画（目標値）に対する実績（指標の分析等）	<p>計画に対する実績値は、平成30年度で89%、令和元年度で81%（新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う中止あり）となり、高い数値で経過しています。</p> <p>令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大によるゆうゆう館の休館に伴う事業の中止があり、実績が下がることが予想されます。</p>
評価と課題	<p>利用者の高齢化が一層進んでいることから、ゆうゆう館運営団体と連携して、利用者の健康管理面に特段の注意を払っていきます。</p> <p>また、施術者の質の向上や接遇力の向上を支援していくために、利用者の声を反映させ、三療サービス連絡協議会との意見交換を積極的に行っていきます。</p> <p>更に、ゆうゆう館運営団体の協力も得ながら、三療サービスの具体的な効果を確認するとともに、介護予防・健康増進に向けた実施方法などについて検討します。</p>

## 令和 3年度の方針（A c t i o n）

予算の方向性（見直しの視点）	I. 事業コストの方向性	現状維持
	II. 事業の改善の方向性	手段・方法の見直し（改善）
予算の方向性の理由・内容	<p>健康増進や介護予防事業につなげていく取組として引き続き実施していきます。</p> <p>区の施設整備再編計画に基づくゆうゆう館の地域コミュニティ施設への転換を踏まえ、残るゆうゆう館における三療サービスのあり方や、適正な利用者負担額などについて検討していきます。</p>	



# 令和 2年度 杉並区事務事業評価表 (2)

## 令和元年度 事業実施状況 (D o)

整理番号 175

主な取組	内 容	規模	単位	事業費 (千円)
	敬老会開催		6,322	人
	敬老祝い品贈呈	5,907	人	18,809
	その他 ( )			
事業実績	<p>敬老会事業は、毎年好評で、クラシックのみならず他の音楽の分野にも造形の深い日本フィル交響楽団による弦楽アンサンブルとソプラノ歌唱の演奏会を実施しました。また、民間業者と契約し、広告収入1989千円を得ることができました。</p> <p>敬老祝い品は81歳と90歳の方にカタログギフトによる祝い品を贈り、100歳以上の方にカタログギフト、肌着セットから1点選択していただく形で祝い品を贈りました。さらに、在宅で生活している100歳以上の男女1名ずつを区長が訪問し長寿を祝い、花束の贈呈をしました。</p>			

## 令和元年度 評価と課題 (C h e c k)

事業開始当初から現在までの環境の変化と事業に対する意見 (期待・要望・苦情等)	<p>対象である75歳以上の人口は、敬老事業が開始された頃と比較すると、昭和27年は約3,000人、令和元年は約66,000人で22倍となります。</p> <p>敬老会は、昭和25年から開催が始まり、平成30年度では3日間計9回公演となりました。</p> <p>祝い品については、100歳以上の長寿祝いが平成2年度から、81歳の祝い品が平成12年度から、75歳の祝い品が平成15年度から (平成28年度で終了)、90歳の祝い品が平成29年度から開始され、現在に至っています。敬老祝い品のカタログギフト (100歳以上は平成14年～、75、81歳は平成21年～) は、個人の嗜好に合わせて商品を選択できるので、楽しみにしているという声が多数あります。</p>
事業の今後 (3～5年) の予測と方向性	<p>令和2年度敬老会は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、開催を中止しました。敬老会は今後「新しい日常」の下にコロナ感染防止対策をしつつ、慎重に開催について検討していきます。</p> <p>敬老祝い品については、高齢者人口の増加に伴い、対象者の増加が見込まれます。今後は対象年齢の引き上げや祝い品の内容を含め、敬老祝い品事業全体の見直しを図ります。</p>
計画 (目標値) に対する実績 (指標の分析等)	<p>敬老会の対象者は年々増え、来場者率は、令和元年度9.8%と対象者の1割に迫っており、今後も増え続ける見通しです。</p> <p>敬老祝い品の交換率は高い水準で推移していますが、対象者の死亡・転出や、自由意志による交換の辞退などにより、成果目標の100%は未達となっています。</p>
評価と課題	<p>令和元年度の敬老会は、介護士と看護師の増員強化も含め、事業企画、設営案内・誘導を業者へ委託したことで、3日間で6,322人もの高齢者が参加しましたが、怪我人が出ることなく、無事終了することができました。また、民間業者と契約し、広告収入をあげることができました。今後は、やがて来る団塊の世代が参加対象となるのを見据え、敬老会のあり方を検討していきます。</p> <p>交換率もよく、好評である敬老祝い品については、高齢者人口のさらなる増加を見越した見直しが課題です。</p>

## 令和 3年度の方針 (A c t i o n)

予算の方向性 (見直しの視点)	I. 事業コストの方向性	現状維持
	II. 事業の改善の方向性	現状維持
予算の方向性の理由・内容	<p>敬老会の開催については、新型コロナウイルス感染症防止対策をしつつ、開催する方向ですが、今後は75歳以上の高齢者の増加を視野に入れながら、より適正な形での実施へ見直していきます。敬老祝い品についても同様に取り組みます。</p>	



# 令和 2年度 杉並区事務事業評価表 (2)

## 令和元年度 事業実施状況 (D o)

整理番号 176

主な取組	内 容	規模	単位	事業費 (千円)
	長寿応援ポイント事業業務委託、ゆうゆう館での受付業務委託			
長寿応援ポイント事業活動認定会議等の開催		8	回	174
事業紹介冊子、ポイントシール印刷ほか				1,687
電子複写機賃賃借、保守、消耗品購入				1,817
その他 (商品券の購入ほか)				54,979
事業実績	<p>令和元年度末の登録活動数は1,500件で、平成30年度末の1,483件から1.1%の増加となりました。長寿応援ファンドを活用し、高齢者の健康づくりや、誰もが住みやすいまちづくりを進める活動として、6団体に助成を行いました。</p>			

## 令和元年度 評価と課題 (C h e c k)

事業開始当初から現在までの環境の変化と事業に対する意見 (期待・要望・苦情等)	<p>事業開始年度である平成21年10月の区内65歳以上人口は103,024人でしたが、令和2年4月現在では、119,687人に増加しています。</p> <p>高齢者の活動参加へのポイント配布については、「参加意欲が向上する」「新規参加者を活動へ誘うきっかけとなった」等の声が届いています。その一方で、ポイント取得を前提としたボランティア活動に対する疑問や、事業の効果が見えにくいという意見も寄せられています。</p> <p>また、長寿応援ファンド助成を受けた活動団体からは、「事業実施の環境が整ったことで、充実した活動ができた」等の評価を得ています。</p>
事業の今後 (3~5年)の予測と方向性	<p>高齢化社会において、高齢者が地域活動への参加を通して共に支え合い、いきいきとした高齢期を過ごすことができる社会を目指す取り組みが必要となります。本事業についても、地域包括ケアシステムの枠組みの中で、より一層介護予防や地域貢献活動を促進する事業となるよう、課題を整理した上で事業の見直しを進めていきます。</p>
計画 (目標値) に対する実績 (指標の分析等)	<p>令和元年度末の登録活動数は、1,500件 (新規78件) となりました。新規参加者がより活動に参加しやすい事業となるよう、事業の見直しを進めていきます。</p>
評価と課題	<p>登録活動数は、平成21年度の事業開始以来増加を続けており、様々な地域活動が行われるようになりました。その一方で、参加者の固定や事業の効果が見えにくい等の課題があります。</p> <p>また、地域に貢献する公益的な活動や、様々な世代を支援する活動に対して助成を行う長寿応援ファンド助成については、申請数、助成活動数ともに減少傾向にあります。</p> <p>今後の高齢化社会を見据え、介護予防や費用対効果の観点からも、事業のあり方について、検討・見直しを行います。</p>

## 令和 3年度の方針 (A c t i o n)

予算の方向性 (見直しの視点)	I. 事業コストの方向性	現状維持
	II. 事業の改善の方向性	手段・方法の見直し (改善) ・対象の見直し
予算の方向性の理由・内容	<p>登録活動数の増加に伴い、引き続き事業参加者数の増加が見込まれますが、予算は現状維持とし、課題を整理しながら、事業を見直します。また、長寿応援ファンドのあり方についても、検討・見直しを行います。</p>	



# 令和 2年度 杉並区事務事業評価表（2）

## 令和元年度 事業実施状況（D o）

整理番号 230

主な取組	内 容	規模	単位	事業費（千円）
	運営管理（指定管理者）			
	建物管理委託			33
	賃借料の支出			55
	ゲートボール場清掃等委託			276
	その他（光熱水費、消耗品購入費など）			5
事業実績	<p>高齢者活動支援センターの利用者のため、電位治療器の借り上げ及び保守管理を行いました。                      高齢者ゲートボール場の利用者が快適に使用できるように便所清掃や樹木剪定等ゲートボール場の維持管理を行いました。</p>			

## 令和元年度 評価と課題（C h e c k）

事業開始当初から現在までの環境の変化と事業に対する意見（期待・要望・苦情等）	<p>高齢者活動支援センターは昭和58年の開設後、隣接する杉並清掃工場の建替工事に伴い、大規模改修工事を実施し、平成24年5月からはより効果的かつ効率的な運営の下、利用者がより一層利用しやすい施設とするため指定管理者制度を導入しました。また、平成29年度には、はつらつルームを保育室に転用しています。利用については、高齢者団体から行政が講座室・多目的室を使用する頻度が高いとの意見が寄せられました。</p> <p>高齢者ゲートボール場登録団体数は平成12年度の29団体をピークに減少し、令和元年度末では14団体となっています。利用者からはグラウンドの整備や樹木剪定等の要望が寄せられました。</p>
事業の今後（3～5年）の予測と方向性	<p>高齢者活動支援センターの利用率は、これまでの実績から引き続き70%前後の水準で推移すると推定されます。</p> <p>高齢者ゲートボール場登録団体数は、ゲートボール人口の増加が見られないことから、今後もゆるやかな減少傾向は継続すると考えられます。</p>
計画（目標値）に対する実績（指標の分析等）	<p>高齢者活動支援センターの利用率は、3月に新型コロナウイルス感染症拡大に伴う施設の休止を行ったため、利用率の目標値を下回りました。</p> <p>ゲートボール場の利用率も同様に3月に休止期間を設けたため、目標値を下回りました。</p>
評価と課題	<p>各講座室と多目的室の稼働状況は合わせて69%の状況で稼働し、中でも多目的室は90%の稼働率です。高齢者団体の使用が半数以上を占め、高齢者のいきがい活動等の支援に寄与しています。また、運営する指定管理者と区との役割分担を明確にしておき、特に指定管理者が実施する「地域懇談会」は、地域の関係者と意見交換を行うなど施設の円滑な運営に役立っています。今後も地域活動の拠点となるよう、指定管理者と区の連携の強化を図りながら円滑な運営に取組みます。</p> <p>高齢者ゲートボール場については、高齢者の健康維持に寄与していますが、一部の利用者に限られ、また利用団体数が減少傾向にあります。今後の施設のあり方について検討を進めます。</p>

## 令和 3年度の方針（A c t i o n）

予算の方向性（見直しの視点）	I. 事業コストの方向性	現状維持
	II. 事業の改善の方向性	手段・方法の見直し（改善）・実施主体の見直し
予算の方向性の理由・内容	<p>高齢者活動支援センターでは、利用者の意見に基づく利用方法の改善や地域活動の拠点として社会参加の充実を図る事業等について、指定管理者と引き続き協議・検討を行います。</p> <p>高齢者ゲートボール場の使用については、一部の利用者に限られ、また、その利用者において減少傾向にありますが、高齢者のいきがい活動を支援するため、施設の維持管理を行います。</p>	



# 令和 2年度 杉並区事務事業評価表（2）

## 令和元年度 事業実施状況（D o）

整理番号 231

主な取組	内 容	規模	単位	事業費（千円）
	光熱水費の支出	32	館	32,517
施設保守管理委託	32	館	25,822	
消耗品購入、修繕、家屋等修繕	32	館	9,719	
ゆうゆう広場開設工事	32	館	4,655	
その他（物品・機器リース、電話料金、物品保守委託、負担金の支出ほか）			2,977	
事業実績	<p>ゆうゆう館の利用者が安全かつ快適に利用できるように、施設修繕、施設保守管理委託などを行うとともに、老朽化した物品の買い替え及び不足している物品の購入を行いました。 また、ゆうゆう広場の開設に関する工事を行いました。</p>			

## 令和元年度 評価と課題（C h e c k）

事業開始当初から現在までの環境の変化と事業に対する意見（期待・要望・苦情等）	
事業の今後（3～5年）の予測と方向性	
計画（目標値）に対する実績（指標の分析等）	
評価と課題	<p>ゆうゆう館の施設・設備の維持管理を行うことで、利用者が安全かつ快適に施設を利用することに貢献できました。しかし、築40年以上のゆうゆう館が半数を占めていることから、老朽化に伴い施設維持に必要な修繕が増えてきています。今後も杉並区立施設再編整備計画の進捗状況も確認しながら、優先して修繕する建物及びに設備を精査し、引き続き利用者が安全かつ快適に利用できるような施設の維持管理を行います。</p>

## 令和 3年度の方針（A c t i o n）

予算の方向性（見直しの視点）	I. 事業コストの方向性	縮小
	II. 事業の改善の方向性	手段・方法の見直し（改善）・対象の見直し
予算の方向性の理由・内容	<p>築40年以上の施設が半数以上を占め、建物や設備の老朽化が進んでいますが、令和3年度においてもその修繕や保守点検を的確に行い、施設の維持管理を行います。 また、令和3年1月に3箇所のゆうゆう館がコミュニティふらっとへ移行するため、令和2年度に比べ、令和3年度の維持管理費は削減の方向になります。</p>	